

第72号

青森地区保護司会

保護司会だより

発行：青森地区保護司会広報部
 青森市長島1丁目3-28
 更生保護施設プラザあすなる
 青森地区更生保護サポートセンター内
 TEL017-763-0763



浪岡地区「安全・安心まちづくり合同パレード」に参加



令和4年6月25日(土)に「第48回浪岡地区安全・安心まちづくり合同パレード」が開催され、青森地区保護司会の天内会長、第5分会の鎌田分会長と一緒に保護司の皆さんも社会を明るくする運動・黄色のはんてんを着用し、パレードに参加した。コースは、浪岡中央公民館～中世の館まで。

保護司OB会回想記



青森地区保護司OB会
 事務局長

伊藤 尚三

3年前に退任した一保護司です。保護司とは何をするのか全く分からない自分が14年間の体験の中から、思い出になり達成感のあった2件のケースについて書いてみました。

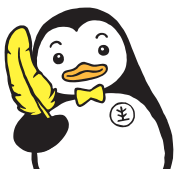
(1)未成年、器物破損、暴行傷害

中学生B君は若気の至りで他校生とのケンカ、傷害事件等で何度か警察の世話になり片親の母もどうすることも出来なく持て余していた。これを解決すべく当時の校長先生と母親それに保護司の三者が一体となり何度も本人と接触し無事中学を卒業するこ

とが出来、数年後、彼が家に来て子どもの写真を見せ、今現在元気に働いていますとの報告と感謝を受け保護司冥利でした。

(2)成年、脅迫、暴行罪

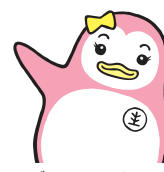
成年Sさんは交際していた女性に脅迫、暴行罪で対象者となり本人との面談結果、仕事もなくイライラしていたとの事。本人の特技、やる気等を聞いた後、町内に住んでいるある人の会社を紹介して働いてもらった。結果は予想以上に良く、会社側としては是非正社員として末永く働いて欲しいと要望があり、本人は生き返った様子で今でも元気に働いております。今回2例を記述しましたが、保護観察対象者の多くは幼少期からの家庭環境に起因することが多く、面接時には本人の特技や、やる気を見い出し学校や会社等、横のつながりを大いに活用し助言することが大切と思います。



更生ペンギンのホゴちゃん

～ 第72回 社会を明るくする運動・中学校連携事業 ～ 南中学校での杜明運動

開催日／令和4年7月11日(月) 【R5年度 古川中学校】



更生ペンギンのサラちゃん



渡邊校長へ青森保護観察所野尻所長より内閣総理大臣メッセージを伝達



挨拶する渡邊校長 挨拶する小野寺市長



学生サイバーボランティア 校内 TV 放送中継

3年生が体育館で参加、1・2年生は教室で校内テレビ放送で視聴。

1・2年は教室でテレビ視聴

今年度もコロナ禍、感染対策を行いながら7月11日南中学校で開催された。(渡邊諭校長、全校生徒数633名、教職員48名、4月4日現在)

3年生が体育館に集まり、1・2年生は教室でTV放送での視聴となった。小野寺青森市長(社会を明るくする運動青森地区推進委員会委員長)の挨拶、青森保護観察所野尻所長から内閣総理大臣メッセージを渡邊校長へ伝達、校長の挨拶があり、岸田総理の「第72回社会を明るくする運動に寄せて」のビデオメッセージ等を視聴した。

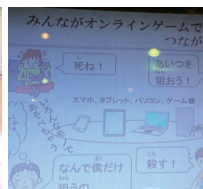
青森県警本部サイバー犯罪対策課の工藤氏が「Instagram他SNS対策」と題して講演、終わりに生徒代表からお礼の言葉、そして青森地区保護司会天内会長が締めくくった。

保護司は Zoom オンラインで参加 個人か保護観察所会議室で

保護司や関係団体の参加はコロナ禍により、昨年同様 Zoomでのオンラインを実施。個人または青森保護観察所会議室での視聴となった。昨年は、音声が響いて聞きづらいという事があったが、今年は特に支障は無かったようだ。オンラインの課題と言えば時々通信障害が発生し、電波が途絶えること。解消は厳しい。



講演の県警工藤氏



講演の風景

生徒代表からお礼の言葉、青森地区保護司会天内会長



保護司は、Zoomのオンラインの会場になった青森保護観察所で参加



「社会を明るくする運動」に参加して

【南中学校 生徒の感想文】



1年 平沢 唯花

今回「社会を明るくする運動」に参加し、犯罪やいじめは、私たちの身近なところで起こるかもしれないことや、私たち中学生も、明るい社会を作っていく一人なのだと言うことを改めて実感しました。

岸田内閣総理大臣からのビデオメッセージや小野寺市長、県警察本部サイバー犯罪対策課の工藤靖之さん等からお話をうかがい、72回目を迎えるこの運動が、どれほど大切なものか、また、犯罪や非行の防止と立ち直りについても理解を深めることができました。私たちが生活する上で、普段当たり前のようになっているインターネットですが、それによる金銭トラブルや犯罪、いじめが多くなっているそうです。インターネットでの高額課金やオンライン通話、オンラインゲームがいじめにつながっていることもあるそうで胸が痛みました。さらに、顔写真や動画をSNSにアップしただけでも、居場所の特定や個人情報漏れる危険もあるとのことでした。

た。私たち一人一人が正しい知識を身につけ、言動に責任を持つことが何よりも大事だと思いました。そして、犯罪や非行等の背景には、望まない孤独や社会的孤立、社会における様々な生きづらさが存在していることが少なくないそうです。犯罪や非行を生まない社会作りや過ちを犯した人が立ち直るためには、「信じてくれる人がいること」「必要とされる場所があること」も大事なのだそうです。「挨拶は心の扉を開く鍵」と言われますが私が通っている南中学校でも、積極的に挨拶運動を行っています。登校する朝に気持ちの良い挨拶で迎え、登下校時には地域の方にも挨拶をします。挨拶が返ってきた時の喜びが1日の活力にもなり、繋がる安心を得ることもできます。また、学校や地域にはきれいな花が植えられていて、明るい社会に繋がっているようにも思います。困っている人がいたら助け、1人である人がいたら声をかけ、身近にいる人たちを大切にしたいと思います。

2年 小山 颯介

インターネットを利用するのが当たり前な今、今回僕はこの社会を明るくする運動に参加してインターネットの恐ろしさを強く感じる事ができました。

今流行のオンラインゲームについてです。その中でもバド口系系のゲームが流行っています。僕も実際によくやっているのですが、とても楽しいです。しかし、友達とオンラインゲームをするとき相手に「死ね」などと言ってしまふことがあります。このオンラインゲームでの悪口を理由に、いじめにつながったりケンカになったりするそうです。ゲームでもどこでも暴言をはくのは絶対にダメと言うことです。今後ゲームをする際、この言葉を言ったら相手は悲しまないか、きずつかないかと、考えて発言をして楽しくゲームをしていきたいです。

次にネットはすぐ広まることです。まず SNSに何かを投稿すると、一生消せないと言うことです。自分の顔や名前が世界に広まってしまう危険性があります。また、住所も特定されてしまうこともあるそうです。実際に自分の家の前で撮った動画を投稿したら住所を特定されたと言うことも聞いたことがあります。SNSは楽しい反面このような危ない人がいるため、十分に気をつけながら使っていきたいです。

このように、インターネットは便利で楽しいですがその分恐ろしいと言うことがわかりました。SNSを利用したいじめも増えてきているそうです。SNSも普段と一緒に相手の気持ちを考え自分がされて嫌な事はしないと当たり前の気持ちを忘れずにすることが大切だと思いました。この運動で恐ろしさを知ったので意識しながら生活し、この社会が少しでも明るくなれば良いなと思います。

3年 木村 紗久良

私は今回、社会を明るくする運動に参加して大切にしたいと思ったことがあります。

1つ目は情報モラルを身に付けることの大切さです。まず情報モラルとは、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方や態度、具体的には個人情報の保護、人権侵害、著作権等に対する対応、危険回避のことを指します。今回視聴した動画の例では、SNSでやりとりをしていた相手が少女になりすましていた成人男性であり、主人公が脅かされてしまうと言う問題が発生しました。この事例で、主人公は情報モラルを守ることができていません。まず、いくら頼まれたからといって、自撮り画像を送ってしまったことです。いくら相手が画像を送ってきたとしても、そこで安心してはいけません。ネット上で偽の写真を送る事は簡単であり、それだけで相手を信用すると言うのはまだ早いと思います。ネット上では常に警戒心を持ち、個人情報を守らなければなりません。また、友達が悪口を書き込んだ際、主人公の情報まで漏れてしまいました。もちろん、誰かを誹謗中傷してはいけません。しかしそれと同時に、勢いで書いてしまった言葉が永遠に残り、自分の身まで危険にさらされてしまうこともある。と言うことも知っておかなくてはなりません。

2つ目は、支えてくれる人の必要性です。アニメーションの動画を視聴した時、主人公は常に誰かと一緒にいました。普通に生活するにしても、悪い方に流れていくにしても、必ず誰かといる、そしてその間のひとりになった瞬間を支えてくれる人が必要なことが、あの動画から伝わってきました。中学生になるとどうしてもひとりでも何でもしようと、周りをつきはなしてしまうこともあります。でも、ひとりでは結局何もできない。誰かに支えてもらわないと、寂しく、自分の無力さを実感するだけです。そんな時に寄り添ってくれる、そんな人の存在が私たちには必要です。

何でも理解し、ひとりで行動できる人なんていません。だから私たちは周りからのサポートを得て、さらなる知識を得る、そしてそれを複数人で共有し、手を取り合って生きる、そんな行動が増えれば、日本での犯罪件数はより大幅に減少するのではないかと私は今回の運動で考えました。私は誰かを頼る、と言うことがとても苦手です。でも、これからは悩みも、仕事もひとりで抱えず、周りへ援助を求めること、そして自分の意識を持って行動することを、大切にしていき、みんなで笑い合っただけでなく、努めていこうと思います。

社明運動「2022のぼり大作戦」

7月は“社会を明るくする運動”強調月間・再犯防止啓発月間です。



個人宅 (古川)



町会花壇 (安方)



かかしロード280 (油川)



ゴミ置き場 (旭町)



個人宅 (金浜)

無人展示会 (アウガ・駅前スクエア)



個人宅 (大野)



上野町会



甲田中学校

本年度もコロナ禍のため各分会では、中学校での社明運動活動が、計画通りにできなかったため、のぼり大作戦で7月の約1ヶ月間アピールした。



平内町役場



個人宅 (高田)



金沢町会



個人宅 (大野)



筒井小学校建築現場



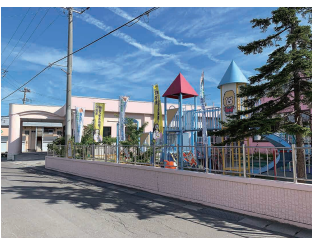
筒井南小学校



筒井中学校



個人宅 (新町)



富田保育園



浪岡交流センター「あびねす」



浪岡中学校周辺



蓬田村役場

令和4年9月1日付

新任保護司紹介

「保護司の委嘱をうけて」



武田 隆全

第1分会 青森市久栗坂

私はお寺の長男として生まれ、僧侶であり保護司でもある父と祖父を見て育ってきましたので、いつかは私も僧侶や保護司をやるものだと思っていました。昨年父が保護司を退任しましたが、私がまだ30歳だったのもう少し年齢を重ねてからと考えていました。今年に入り、私が所属している書道会の会合で保護司の小豆畑緑先生から父と祖父も保護司をやっていたということもあってお誘いと推薦をしていただき、31歳というまだまだ若輩者の私ですが、少しでもお役に立つことができたいと思い、保護司の委嘱を受けることにいたしました。

大学生の時に東日本大震災に遭い、被災者の支援をしていく中で若いからこそできることもあると気づきました。保護司としてはまだまだ若輩者ですが、若いからこそできる役割もあると思います。若さを生かした保護司になれたらと思っておりますのでどうぞよろしくお願いたします。



三上 拓也

第1分会 青森市浅虫

青森市浅虫地区で保護司の委嘱を受けました。2020年に20年ぶりに青森に移住定住し本業と並行して地元ボランティアを引き受ける過程で地域の問題を目の当たりにすることが多く、保護司不在の状況もその一つでした。町会や有識者の方々の推薦を受け委嘱に繋がりました。本職が法務家であり僧侶でもあるので、実生活の中で困ったことに寄り添い具体的な支援策を提供します。様々な事由で社会から離れ再度戻る方々と接することがあります。状況はそれぞれ違いますが社会との繋がり、特に人との繋がりに恵まれず自分を見つめ律する機会を持てなかった方々は非常に孤独であることが多く、継続して信頼関係を持つ場面が少ないことも多く見られます。人生は選択と決断の連続です。常に反省し修正していくのも人生かと思えます。人として保護司として頂いた出会いを大切に、活動を通して共に成長していけるよう努める所存です。



中村 大慶

第2分会 青森市妙見

昨年(2021年)の春から障がい分野(精神/知的)に身を置くようになり、1年間が経過した頃、青森保護観察所統括保護観察官様より【自立準備ホーム】の紹介を受けました。その後、実際の自立準備ホーム見学に同席させて頂き、その際先方の施設長様より『準備ホーム設立するなら、一緒に保護司もやらないか?やった方が良いいよ。社会貢献、奉仕だと思って一緒にやらないか?』とお誘いを受けたのがきっかけでした。保護観察所職員様から保護司について説明を受け、自分にできる事があるのか、ないのかはさておき『まずはやってみよう!!』という気持ちでお受け致しました。地域貢献(特に小中学校からの啓発運動)したい気持ちと、社会を明るくする運動2022「#生きづらさを 生きていく。」に感銘を受けましたので、その受けた刺激を地域に発信していけるよう努めて参ります。また、これから保護司活動を通して、1人でも多くの方々の更生保護に携わり #生きづらさを、生きている方々が自分らしくこの社会を歩んでいけるようサポートをして参ります。どうぞ宜しくお願い致します。



船木 麗子

第2分会 青森市幸畑

私が初めて「保護司」という人に出会ったのは、東京の下町にあるお風呂屋さんです。友人の父でもあるその人は、番台に座って若い人と毎夜話し込んでいたものです。自転車で乗って地域を走りまわる姿も見かけていました。それが、保護司の活動だったことを知り、興味を持つようになりました。

福祉の仕事、特に障害のある人と過ごした日々の経験を生かし、生きづらさを抱える人の気持ちに寄り添いながら、保護司としての活動を少しずつすすめていけたらと思います。



高坂 行成

第3分会 青森市大野

私は、趣味で知り合った田邊さんから、お話がありまして、その時は単身赴任しており昨年45年勤めていた会社を定年退職して今回の委嘱を受けることになりました。2006年7月に急性リンパ性白血病を発症し、その時は最初薬で治療するが、薬の効く確率は50%、効いたとしても骨髄移植しないと助からない、移植しても5年後の生存率は30%と言われ、ショックでしたが持ち前の前進主義で前向きに戦い、2017年9月に血液内科を卒業と言われました。その間には、骨髄バンクの依頼により高校などで講演も行いました。このような体験の中で、医師、看護師、患者会、趣味の世界などで、多くの人と出会い、人は会うべくして会っていると感じました。保護司の活動も、会うべくして会っていると思い、諸先輩方のご指導の下に保護司として、前向きに取り組んで行く所存であります。宜しくお願い致します。

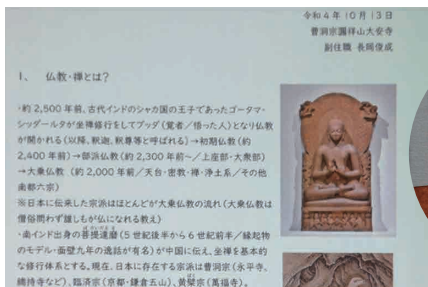
研修Ⅰ 禅による「ネガティブ感情」との向き合い方

研修Ⅱ 歌う葬儀屋さん～非行少年と呼ばれた私～

令和4年度 県央ブロック保護司研修会 10月13日(木) 【幹事/むつ下北地区保護司会】

コロナ禍で延期されていたブロック研修は、3年ぶりにむつグランドホテルにて開催された。研修Ⅰでは、曹洞宗圓祥山大安寺 副住職 長岡俊成氏を、研修Ⅱでは、歌う葬儀屋さんのメンソーレ川端氏を講師に迎えた。長岡氏は、仏教・禅とは、禅の身体論、禅の修行とは？、そして座禅の基本は、「身体を調える」「呼吸を調える」「心が調う」こと。また、気軽にできるイス座禅について紹介した。

メンソーレ川端氏は、登校拒否の頃、非行少年だったエピソードでは母が泣く姿を見てから改心し、葬祭業との出会い、歌手を始めたことなどを紹介。また2ndシングル「合掌～あなたへ～」なども披露した。



3年ぶりの熱気に包まれた演舞

青森地区更生保護女性会
「社会を明るくする運動」
～みんなのつどい～

「広げよう非行を防ぐ地域の輪」「ふれあいと対話が築く明るい社会」のテーマの下、3年ぶりに第39回みんなのつどいが、7月27日(水)リンクモア平安閣市民ホールで開催された。

塩原誓子実行委員長(青森地区更生保護女性会長)挨拶の後、小野寺青森市長(代理)、青森保護観察所野尻所長より祝辞をいただき、寄付金贈呈、青森地区保護司会天内会長の謝辞に続き、来賓の紹介があった。

各地区更生保護女性会や賛助会員の舞踊・唄などが披露され、今年も青函交流で函館地区保護司会・函館地区更生保護女性会からの参加もあった。



令和4年度
保護司顕彰

法務大臣表彰に石田孝信氏、川島芳正氏

全保連理事長表彰に 山田啓子氏、川嶋勝美氏

本年度の法務大臣表彰、全国保護司連盟理事長表彰等の顕彰式典は、3年ぶりに青森県更生保護大会・五所川原市のオルテンシアで開催された。
青森地区受彰者は下記のとおり。



法務大臣表彰（左から3番目、青森地区保護司・川島芳正氏）

令和4年度 受彰おめでとうございます

青森地区保護司会被表彰者 (敬称略)

【瑞宝双光章】更生保護功労 保護司 関 一 宇

【法務大臣表彰】 保護司 石 田 孝 信 川 島 芳 正

【法務大臣感謝状】寄附者
(株式会社三和堂 代表取締役社長) 中 村 ゆ う 関 一 宇

【全国保護司連盟理事長表彰】 保護司 山 田 啓 子 川 嶋 勝 美

【東北地方更生保護委員会委員長表彰】

保護司 兜 森 忍 道 古 川 崇 常 田 アキエ

【東北地方更生保護委員会委員長感謝状】寄附者 青森地区保護司会

【東北地方保護司連盟会長表彰】

保護司 高 橋 俊 嗣 藤 田 貢 家族功労 今 井 嗣 郎 (今井 百合子 夫)

【青森県知事感謝状】

保護司 工 藤 晶 信 松 山 義 幸 穴 水 由 利 子 岩 谷 博 昭

【青森保護観察所長表彰】

保護司 有 馬 敦 子 大 山 由 紀 子 織 田 隆 全 工 藤 美 智 子
佐々木 雅 久 七 戸 俊 逸 柚 谷 徹 也 高 尾 和 子
高 橋 修 一 對 馬 博 中 村 徹 鳴 海 敏 恵
山 上 雄 治

【青森県保護司会連合会会長表彰】

保護司 大 柳 正 光 柿 崎 慎 一 柳 直 哉 坂 本 浩 司
笹 森 康 之 外 崎 玄 中 田 靖 人 米 谷 恵 司

第42回青森県更生保護大会 青森県再犯防止推進計画を着実に進めていくことが期待される

第42回青森県更生保護大会は、コロナ禍により、3年間延期となっていたが、本年11月2日五所川原オルテンシアにて開催され、青森地区保護司会からは、39名が参加した。

清興は、五所川原第一高等学校津軽三味線部の「津軽三味線」の演奏。また三内丸山遺跡センター所長・岡田康博氏が「世界遺産で元気になる」と題して講演を行った。

式典では、法務大臣表彰等（7ページ参照）が行われ、最後に宣言文を採択した。

(YouTubeにてアーカイブ配信中)

【宣言文一部抜粋】

私たち青森県の更生保護関係者は、社会情勢の変化に対応し、国民が更生保護事業に寄せる期待と要請に応え、その責務の重大なることに思いをいたし、犯罪や非行をした人の改善更生に努めるとともに、効果的な犯罪予防活動を推進するための一層の努力と精進を重ね、犯罪や非行のない地域社会の建設に寄与することをここに宣言します。



五所川原第一高等学校津軽三味線部の「津軽三味線」の演奏



講演する岡田康博氏

第42回青森県更生保護大会のアーカイブを YouTube にて配信中

青森県更生保護ネットワークのホームページ

【お断り】当日のLIVE配信アーカイブです。会場の通信状態が不安定で一部画像が乱れています。



保護司OB会交流会

令和4年度青森地区保護司OB会定時総会は6月29日、青森まちなか温泉にて開催した。議案は全て了承され、情報交換（酒飲み?）を活発に行うべしとの話題が出た。もっともな意見であり8月10日にアラスカ会館屋上にて納涼会を実施、当日はOB会員5名、保護司会事務局員など10名の参加を頂き、久々の再会、懐かしい話題で盛り上がりました。コロナに負けず、当日の直前の雨にも負けず楽しい夕焼け顔でした。

(OB会事務局長)



【**退任保護司**】長年のご尽力を賜りありがとうございました。

大柳 常弘 (3分会)

ひとつ増えた引き出し!

ひとつこと

日を追うごとに増えつつある新型コロナは、「第8波」に入ったとされる。今年は季節性インフルエンザと同時流行かもしれないと警戒されているが、感染を防ぐには、1人ひとりが最初に立ち返って、基本的にやらなければならない事を実行するのみと思う。

コロナ禍により開催されていなかった研修会や大会等が、今年は制限がありながらも開催された。私も、それらに参加した一人である。

そんな中で、9月末に案内をいただいて参加した学ぶ会が印象に残っている。「依存症について学ぶ会」だ。私が保護司になって、初めて学ぶことだった。「青森県立精神保健センター」があること、そして「精神保健福祉士」というお仕事があることを知った。講話を聞いて、目から鱗が落ちる知識ばかりだった。

「人間生きている限り生涯学習」というが、この日、私の引き出しがまたひとつ増えた瞬間だった。

広報部 山内 みどり